

# 令和6年度 学校評価報告書

小樽市立銭函中学校  
校長 富士原 孝浩

## 【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価  
 A: 100%以上  
 B: 80%以上100%未満  
 C: 80%未満

## 【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価  
 ◎: 適切である  
 ○: おおむね適切である  
 △: 適切でない

### 1 本年度の重点目標

**【重点教育目標】**自分の考えをもち、主体的にコミュニケーションを図り、最後までやり遂げる生徒の育成  
 生徒が自分と他者のよさや可能性を最大限に生かし、社会で活用できる力を身に付け、ふるさと小樽の発展に貢献する人材を育成できるよう、全ての教育活動において、キャリア教育の充実を図る。また、小中連携により、9年間を見据え、中学校卒業時点の望ましい姿として「自分の将来を描き、主体的に発信できる生徒の育成」を全ての教職員がイメージしながら教育活動を行う意識を高めていく。

### 2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査の国語・数学の平均正答率について、全国平均の-4ポイントの正答率を上回る。	C	ICTを研究主題の中核に据え、授業改善に取り組んだ。国語は目標を達成したが、数学は達成できなかった。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援COを中心に、学期に1回校内支援委員会を開催し、困り感のある生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。	A	各学期1回以上の校内支援委員会を開催した。通常の学級における特別な支援を要する生徒について情報共有し、必要に応じてスクールカウンセラーと連携して支援を行った。	◎
	国際理解教育の充実	授業や放課後学習においてALTの効果的な活用を通して、英語力の向上を目指す。また英語検定受検者50人以上を目指す。	B	ALTを活用した英語の放課後学習を隔週で実施し、のべ参加人数が100人以上となった。英検受検者数の目標については達成できなかった。(R6:2回合計20名)	◎
	理数教育の充実	全国学調の生徒質問調査において「数学の勉強は好きだ」の問いに対する肯定的回答の割合を50%以上にする。(R5:40.8%)	A	ICTを活用した振り返りを位置づける等の取組を通して、学びに向かう力の育成を目指した。結果は55.4%となり、目標を達成することができた。(令和5年度+14.6ポイント)	◎
	情報教育の充実	情報に関する理解を道徳や家庭・技術などの教科内で身に付ける。また、外部から講師を招き、情報モラル教室を年1回行う。	A	教育課程に基づき、各教科等において情報教育の充実を図った。情報の収集・分析のみならず、プレゼンソフトなど情報表現について充実させた、情報モラル教室を長期休業前に実施した。	◎
	キャリア教育の充実	生徒アンケートの「将来の夢や目標がある」について肯定的な回答を70%以上にする。	B	進路学習や職業体験学習を通してキャリア教育に取り組んだ。後期アンケートの結果、全校:69%となり、目標を達成できなかった。(1年生:62%、2年生:65%、3年生:82%)	◎
改善方策	[確かな学力の育成]数学科において一層の授業改善を図る。特に、各種調査における同一集団による比較などを踏まえながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること。 [国際理解]ALTの放課後学習や英検への参加を一層促し、グローバルな視点を将来の進路選択に生かす機会を設ける [キャリア教育の充実]総合的な学習の時間における探究学習と自己の生き方・進路指導を関連付けながら一層充実させる。				
学校関係者評価委員による意見	○理数教育については、昨年に比べて増加・改善した要因をしっかりと分析して、次年度以降も続けることが大事だ。 確かな学力の育成の数学の授業改善とも密接につながっている。授業中の集中力、関心、忍耐力を伸ばす工夫が必要。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	学年副担任を含めた「ローテーション道徳」を日常化し、道徳の授業力向上を目的とした道徳の授業実践交流を1回以上行う。	A	学年ごとのローテーション道徳を通年で実施することができた。また、岩見沢から外部講師を招聘し、道徳特別校内研修を実施するなど、授業実践交流を行うことができた。	◎
	ふるさと教育の充実	総合的な学習の時間で「ふるさと小樽」の街づくりを考える学習を実施する。また、地域人材を活用した授業を年2回以上実施する。	A	小樽市教育委員会のキャリア教育推進に関わる出前授業を活用して、「小樽まちづくりへの想い」と題した講演を実施するなど、地域人材を活用した授業を年2回以上実施することができた。	◎
	読書活動の推進	学校図書館の充実を図り、週に1時間以上読書する生徒の割合を50%以上とする。	C	朝読書や昼休み等の図書館開放に取り組んだ。後期アンケートの結果、全校:25%となり、目標を達成することができなかった。(1年生:30%、2年生:29%、3年生:15%)	◎
	体験活動の推進	「特別活動等での体験的な活動を通して心が成長した」において、80%以上の生徒が肯定的回答をする。	A	旅行的行事の職場訪問などに取り組んだ。後期アンケートの結果、全校:95%となり、目標を達成することができた。(1年生:90%、2年生:98%、3年生:95%)	◎
	コミュニケーション能力の育成	「授業で、(中略)自分の考えがうまく伝わるよう、(中略)話の組み立てなどを工夫して発表する」の問いに対する肯定的回答の割合を55%以上とする。	A	主体的なコミュニケーションを研究主題の中核に据え、授業改善を行った。後期アンケートの結果、全校:72%となり、目標を達成することができた。(1年生:62%、2年生:72%、3年生:83%)	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的回答の割合を100%にする。新規の不登校の発生を3名以内とする。	B	11・12月にいじめ防止キャンペーンに取り組んだ。結果は全校で98%となり、目標を達成することができなかった。(1年生:95%、2年生:98%、3年生:100%) 新規の不登校は2名であった。	◎
改善方策	[読書活動の推進]学年が上がるにつれて読書時間が少なくなっていることから、家庭学習時間を含めた時間配分や下校後の時間管理について、テスト前の取組表や生活リズムチェックシートなどを活用して、指導を充実させる。 [いじめ防止や不登校]アンケートが否定的回答だった生徒について、担任との教育相談等での考えを正す指導を行う。 新規の不登校については、登校支援室など専門機関と連携を深めるなど、可能な限り少なくなるよう努める。				
学校関係者評価委員による意見	○読書活動の推進については、共働きの保護者が多いなど家庭環境自体にゆとりがない側面もある。親自身が安心して読書している姿を見せにくい。また、学校教育だけで解決できる問題ではない。家庭との連携が大切だ。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全国平均を上回る種目を1年生で2種目、2・3年生で3種目以上とする。	B	中学校体育授業実践スペシャリスト加配を活用した授業改善を行った。【1年生】男子2種目、女子1種目、【2年生】男子4種目、女子2種目、【3年生】男子2種目、女子2種目、全国平均を上回った。	◎
		食育の推進	外部講師による食育に関する講話を1回以上実施する。	A	4月に、全校生徒が参加して、雪印メグミルク株式会社から2名の講師を招聘し、食育教室を実施した。	◎
		健康教育の充実	外部講師による薬物乱用防止教室など、感染症予防・健康増進に関わる授業を年に1回以上実施する。	A	7月に、全校生徒が参加して、小樽警察署から外部講師を招聘し、防犯教室(特にSNSトラブル)・薬物乱用防止について、講話を行った。	◎
改善方策		〔体力・運動能力の向上〕 ○R6全国体力調査の結果では、特に中2女子で課題が大きいの「長座体前屈」「立ち幅跳び」であった。小樽市小中学校体力向上検討委員会や北海道体力向上推進会議の実践動画資料等を活用して、「自律した学習者」を育成するなど保健体育科の授業改善、及び家庭での運動習慣の啓発・改善に取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		○健康教育の充実については、昨今タブレットの活用と言われることが多い中、常時ネットとつながっていること自体「怖さ」があることを踏まえる必要がある。 ○食育については、小樽の給食は質素という意見を聞いたことがある。学校だけの改善ではないかもしれないが。				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	毎日の家庭学習を90分以上行う生徒の割合を70%以上、全くしない生徒の割合を7%以下にする。	C	主に定期テスト前に、計画表の取組や適切な時間管理を重点的に指導した。「1時間以上」では3年81%、2年44%、1年34%、「全くしない」では全校8.9% (3年3%、2年15%、1年8%)となり達成できなかった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	中学校区4校による学校運営協議会を年6回実施することを通して、地域ぐるみで子供を育てる機運を高める。	A	年6回の協議会を実施できた。さらに今年度は12月に各校による単CSを実施した。子供見守り隊の充実など、学校と地域とが共同で子育てする機運を高めることができた。	◎
改善方策		〔家庭教育支援の充実〕適切な宿題の取り組みや放課後学習、生活リズムチェックシートなど、学習習慣のきっかけづくりに加え、時間管理(タイムマネジメント)の意識を一層高めることを通して、家庭学習時間の増加に努める。また、保護者アンケートでは「家庭で(中略)子どもが学習に集中できるように努めている」の肯定的回答が37%にとどまっていることから、家庭学習の手引き等を活用しながら、保護者意識の向上に努める。				
学校関係者評価委員による意見		○銭函地区の特徴として、民間の塾などが少ないことも、学校外での学習時間の少なさの原因の1つなのではないか。				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	校区4校による小中連絡協議会を年5回実施する。また、年2回合同研修会を開催し、教育課程や生徒指導の連携を図る。	B	小中連絡協議会に係る組織を大幅に刷新し、実務の中核になっている各分掌部長等が毎回参加する形に変え、協議内容の質を向上させた。また、8月には小中合同研修会を1回実施した。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境を整えるため、校内の施設設備の点検を年に3回実施する。	A	学期に1回程度の施設設備の点検を行った。例えば、調理室のカビの状況を施設管理課の立ち会いで確認するなどの対応をとった。	◎
		教職員の資質・能力の向上	研修テーマ「子どものコミュニケーション能力の育成」を目指した校内研修を年5回以上実施し、公開研究会を10月に実施する。	A	5回以上の校内研修に加え、公開研究会を10月に実施することができた。また、道徳の示範授業についても実施することができた。	◎
		学校運営の改善	月に2回の定時退勤日の設定とともに、月45時間以上の超勤の割合を50%未満とする。	A	月2回以上の定時退勤日を設定した。また、時間外在校時間について、45時間以上(4~12月の8ヶ月間平均)は、道費職員20名中2名(教頭、主幹教諭)のみとなり、50%未満を達成した。	◎
		学校安全教育の充実	避難訓練及び防災教室を1回以上実施する。校区安全マップの改訂と小学校と連携した災害時のマニュアルを見直ししながら更新する。	A	避難訓練を5月に実施した。また、校区安全マップについては、新たな危険箇所をCSで協議するなど、見直ししながら更新に努めた。	◎
改善方策		〔学校間段階の連携・接続の推進〕連携会議には各分掌部長等が毎回参加する形を定例化するなど、組織改革の継続 〔学校運営の改善〕45時間以上の超勤50%未満を継続し、教職員の働きがいとウェルビーイングの向上を目指す 〔学校安全教育の充実〕CSで協議された内容やトヨタモビリティの調査結果等を、安全マップにしっかり反映させる				
学校関係者評価委員による意見		○校舎の耐震化について確認 / 小中連携会議の刷新など学校段階間の連携を一層推進してほしい ○道の教員育成指標による今の教員に求められる力は多種多様で大変だが、がんばってほしい ○安全教育については、津波を想定した避難訓練を町会で実施したり、銭函中学校が災害指定避難所であることを確認したこともある。地域と合同でできるアイデアがあると素晴らしい				
社会教育に関連する目標(目標6~8)		年に2回、長期休業中の学習会で、学習支援ボランティアなどの地域資源を活用する。また、総合学習では、博物館などの社会教育施設と連携する。		A	夏・冬の自習室いずれにおいても、地域の学習支援ボランティアや樽っ子サポート事業など地域資源を活用した。1年生の総合学習では、総合博物館での班学習を計画するなど、連携を図った。	◎
改善方策		○銭函の地域性を生かしながら、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を、外部資源も含めて活用しながら効果的に組みあわせることを継続するなど、目標6~8に係る施策の充実を図る。				
学校関係者評価委員による意見		○地域公開日における地域住民の参加状況について、小学校では参加している様子があると聞く。中学校でも積極的に参加できるとよりよい。				